

学位論文内容の要旨

学位申請者	澤本 和子【論文博士】 【人文科学研究科 修士課程 S47.3月修了】	要 旨
論文題目	reflection という学び —教師を生きる経験を記述する—	<p>本研究は澤本氏が長年にわたり学校教育の授業実践上で開発し、その普及に取り組んできた授業研究法である「授業リフレクション」について、その目的と理念を学術的にまとめなおし、自身の実践事例を用いその方法を具体的に示し、さらには事例を再評価することを通して、自身の開発した研究法の体系化を試みたものである。</p> <p>「授業リフレクション」法とは教師の自己成長を促す授業改革・授業改善を目的とし、その特徴は一人称視点でなされることにある。この背景として、D.ショーンに依拠しつつ「教師を省察的实践家」として、「研究者としての教師」として、「教師の実践的知識は専門的实践に重要な意味をもつ」、「教師は経験を通して実践的知識を形成する主体である」として位置づける視座がある。</p> <p>このことから、氏は授業者である教師自身による授業のリフレクション記述こそを教師の力量形成における主要なデータと位置づけ、その記述を事後にリフレクトすることを通して授業をリデザインする力を育成することを目指してきた。</p> <p>本研究では、ショーンの他、デューイやポランニー等、氏が参照してきた様々な理論的根拠を元に、教師のリフレクション行為の重要性を説明するとともに、氏自身の取り組んできた実践研究の中から教師のリフレクション記述の中に教師という職能固有の「言語」があることを見出し、それらを価値付け、リフレクションという行為を通して教師が授業を改善し、リデザインを通して成長してゆくプロセスを重厚な記述で描き出している。</p> <p>抜き出された事例は、氏の研究歴の中のほんの一部ではあるが、氏が授業リフレクション研究を通して関わってきた教師たちが、自身の言葉を手がかりとして自らの実践を適切に位置づけ直し、次の実践への改善に向けて具体的な方途を見出してゆく、いわば成長の過程が十分描き出されており、授業リフレクション研究法の意義の重要性が見出されるものとなっている。</p>
審査委員	(主査) 准教授 富士原 紀絵	
	教授 耳塚 寛明	
	教授 池田 全之	
	准教授 刑部 育子	
	教授 佐々木 泰子	